

# 鐵槌の音

泉鏡花

青空文庫



てぬまだくら  
 天未に闇し。 東方臥龍山の巔少しく白みて、 旭日一  
 帯の紅を潮せり。 味爽氣清く、 神澄みて、 街衢縦横の地平  
 線、 皆眼眸の裡にあり。 然して國主が掌中の民十萬、  
 今はた何をなしつゝあるか。

これより 旬日の前までは、 前田加賀守治脩公、 毎朝  
 缺すことなく旭を禮拜なし給ふに、 唯見る寂寞たる墓の下に、  
 金城の蒼生皆眠りて、 彌望、 極顧、 活色なく、 眼の下  
 近き鍛冶屋にて、 鐵槌一打の聲ありしのみ。

然るに家業出精の故を以て、 これよりさき特に一個この鍛  
 冶屋を賞し給ひしより、 味爽に於ける市街の現象日を追う

おもむきへん、今日此頃けふこのごろに到りては、鍛冶屋の丁々てうくは謂ふも更さらて趣を變じ、水汲上みづくみあぐる釣瓶つるべの音おと、機はたを織る音おと、鐘かねの聲こゑ、神樂かぐらの響ひびき、騷さわなり、然うぜん、雜然ざつぜん、業げふに聲ありて默もくするは無く、職しよくに音ありて聞えざ然ぜん、無なきに到いたれり。剩あまつさのまち野田寺町のだでらまち、地ぢくわう黄煎げんぐち口あるひ、或は鶴つるぎわう來往らいうらい來より、野菜やさいを擔荷になひて百ひやく姓しやうの八百物市やほものいちに赴おもむく者もの、前後んご疾走しつそう相望あひのぞみて、氣競きほひの懸聲かけこゑ勇ましく、御物見下おものみしたを通とほること、絡繹らくえきとして織おるが如ごとし。

治脩公ちしうこうこれを御覽ごらんじ、思おもはず莞爾にっこと、打笑うちゑみ給たまふ。時ときに炊すゐえ烟ん數千流すうせんりう。爾時公そのときこうは左右さいうを顧かへりみ、

「見みよ我わが黽勉びんべんの民たみは他ひとよりも命長いのながし。」

明治三十年六月





# 青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※表題は底本では、「鐵槌《てつつる》の音《おと》」となっています。

※表題の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：米田進

2002年4月24日作成

2016年2月2日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。



# 鐵槌の音

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>